

## 中世の石造物調査 ―新たな発見―

中世史部会では、市内に残る中世（鎌倉・室町時代）の様々な石造物を調査しています。既に所在が明らかで地域の歴史上重要な中世の石造物としては、山方地区の常安寺五輪塔、野口地区の板碑、高部地区の高部景義墓の3点が常陸大宮市指定文化財になっています。中世の石造物は、五輪塔・宝篋印塔などの石塔と、板石に供養の願文を刻んだ板碑が多数を占めています。地域によっては仏像彫刻や他の形状の塔も見られますが、生前または没後供養塔としての五輪塔・宝篋印塔、板碑が関東地方の石造物の主流であると言えます。

今回の市史編さん事業に伴う石造物調査は、指定文化財以外に地域に眠る中世石造物を掘り起し、地域の歴史の中でどのような意義や文化的価値があるのか探ることを目的にしています。現在は調査の途中ですが、今までの通説を覆す新しい発見があります。

実は今までの市町村史の中で、茨城県の中で県央部から県北部にかけては、中世の石造資料は報告例が乏しく、存在そのものも少ないと想定されていました。これに対して県南部は筑波山塊を中心に花崗岩などの産地であり、また、県西部は利根川等の内水運流通を利用して、埼玉秩父産の緑泥片岩等を入手しやすい環境にあるため、年号や文言を刻む中世の石造物が一定量報告されています。

今、市史編さん事業に伴い、多くの調査員が市内各地を踏査しています。その過程で、実は常陸大宮市内には、中世の石造物が多数残されていることが分かったのです。

右の写真は、市内氷之沢地区の個人墓地に残る宝篋印塔ですが、昭和50年代まで2基がセットとして旧道沿いに立っていたことが分かりました。

年号などは刻まれていませんが、様式的にこの石塔は15世紀頃のものと推定されます。この他にも市内の様々な地点で、今まで報告のなかった中世の石造物が続々と発見されています。実物を拝見する限り、五輪塔よりも宝篋印塔の方が多く、五輪塔が多い県南部と



古代・中世史部会協力員 比毛 君男 氏  
(土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場 学芸員)



▲宝篋印塔（氷之沢地区）

は対照的な在り方が県北部では推定されるところです。

私は、現在中世石造物の調査協力員として、発見された石塔を図や写真で記録する作業を行っています。どうか市民の皆さんも、市内に古そうな石塔がありましたら情報をいただけると幸いです。よろしくお願いいたします。

### ■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111（内線344）